

# WWWブラウザ

## Hot Line vol.3

### THIS MONTH'S TOP NEWS

## ブラウザのJava VMを統一する Java Plug-in 公開

今月は2大ブラウザに関する話題が少なかったが、Java 関連とメールソフトの大きなニュースが飛び込んできた。どちらのニュースでも、「標準化」、「互換性」というキーワードに注意しよう。今月はこのほかに、次期コミュニケーターの開発状況の話題などをお届けする。

### Java Plug-in とは？

サン・マイクロシステムズ社は、Java Plug-in を公開した。これは「Activator」という開発コードで呼ばれていたもので、IE 用にはActiveX コントロール、ネットスケープナビゲーター用にはプラグインを使うことで、ブラウザに付属するJava VM とは関係なしにJava アプレットを実行させるものだ。

サンを中心とするJava 陣営にとって、Java 普及の障害の1つと考えられていたのが、Web ブラウザー間でのJava VM の実装の違いだ。マイクロソフトはIE4.0のJava VM からいくつかのAPI セットを取り除いた。ネットスケープコミュニケーターのJava VM もJDK1.1 をフルサポートしていない。アプレットの実行環境をプラグインで統一することで、開発者は互換性が保証されたプログラムを書けるようになる。また、今年半ばに公開が予定されているJDK1.2 への移行も、ブラウザのバージョンアップと関係なく進めることができる。

URL:  
<http://www.javasoft.com/products/plugin/>

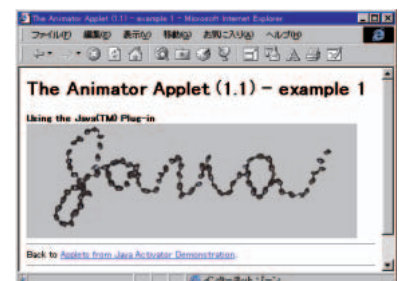
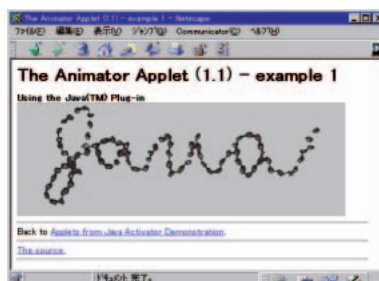
### Java Plug-in 用のHTML

以下のHTML は、Java Plug-in でアプレットを実行させるためのHTML の例だ(ただし基本的な部分だけを残した簡略版)。Flash やMIDI ファイルを埋め込むのに似て、<OBJECT> タグと<EMBED> タグを入れ子にする。

<PARAM> タグや「code=」でアプレットファイルを指定し、「codebase=」や「pluginspage=」でJava Plug-in そのもののダウンロード先を指定する。ただ、Java Plug-in は約8M バイトあるため、あらかじめユーザーの環境にJava Plug-in がインストールされていることを前提とするほうが現実的だろう。

#### HTML の例

```
<OBJECT classid="clsid:8AD9C840-044E-11D1-B3E9-00805F499D93"
codebase="http://java.sun.com/products/plugin/1.1/jinstall-11-win32.cab
#Version=1,1,0,0"
width="200" height="200">
<PARAM NAME="code" VALUE="myapp.class">
<PARAM NAME="type" VALUE="application/x-java-applet;version=1.1">
<EMBED type="application/x-java-applet;version=1.1"
pluginspage="http://java.sun.com/products/plugin/1.1/plugin-install.html"
width="200" height="200" code="myapp.class">
</EMBED>
</OBJECT>
```



2つのブラウザで同じJavaが動く

## THIS MONTH'S TOP NEWS 2

# マイクロソフト アウトLOOK 98 日本語版 6月1日より提供開始!

### 提供サービスの内容

オフィス97のメール&個人情報ソフトとして昨年登場したアウトLOOK 97だが、早くも新バージョンのアウトLOOK 98が登場することになった。アウトLOOK 98英語版は無償ダウンロードがすでに開始されているが、日本語版は残念ながらオンラインでの配布は行われない。6月1日から始まる特別提供サービスは、申し込んだユーザーに製品を送付する形になる。エクセル97、ワード98、アウトLOOK 97がプリインストールされたPCを持つユーザーには無償で提供される。オフィス97、あるいはアウトLOOK 97のみのユーザーは、2,000円で手に入れられる。店頭での販売は、7月下旬の予定だ。

### 全面的に変更されたメール機能

さて、気になるアウトLOOK 98の新機能だが、ひとことで言えば「インターネットメールソフトになった」ことが最大の特徴だろう。アウトLOOK 97では、エクステ

ンジサーバーのクライアントソフトとしての性格が強く打ち出されており、標準のインターネットメールを扱う機能は「おまけ」的であった。今回のバージョンアップでは、インターネットメールがデフォルトのメールシステムとなり、ダイヤルアップで接続しているユーザーにも使いやすいものとなっている。

インターフェイスにはアウトLOOK エクスプレスから取り入れられた部分が多いが、整理ツール(条件を指定した振り分け)や署名の機能はアウトLOOK エクスプレスよりも進んでいる。また、マイクロソフト社のメールソフトで問題とされてきたデフォルトのメール形式がHTMLからテキストになっている。インストールにはIE4.0が必要であり、それなりのスペックのマシンが必要となるが、使ってみる価値は十分あるだろう。

URL:  
<http://www.microsoft.com/japan/office/Outlook/Outlook98/>



左端のOutlook バーはアウトLOOK 97から引き継がれている。自由にカスタマイズもできる。



「整理ツール」を表示させたところ。対話形式で振り分け機能を設定できる。

## ★★★コングリ「TOPICS!」★★★

### ネットスケープ社、次世代HTMLエンジンのソースコードを公開

ネットスケープ社は、コミュニケーター5.0のソースコード公開に続き、次世代のHTMLレンダリングエンジン「Raptor」のソースコードを公開した。コミュニケーターのソースコードと同じく、開発者向けのサイト「mozilla.org」で公開され、利用法は「Netscape Public License」で規定されている。

Raptorは、次期コミュニケーター(ナビゲーター)においてHTMLの解釈、表示のためのプログラムとなることが予定されており、HTML4.0、CSS、XML、DOMなど現在標準化が進められている最新のウェブ技術をサポートすることになる。

先月このコーナーでコンパイル後のコミュニケーターをお見せすることができたが、Raptorはほとんどが未完成である。また、ウィンドウズ用のソースコードしかない。それでもmozilla.orgで示されたロードマップによると、今年6月には「ビューアー」が姿を現し、9月にはナビゲーターと統合されるという。

今後のRaptorは、コミュニケーターと同じ方法、つまり、世界中の開発者がソースコードに取り組み、そのフィードバックをネットスケープ社が次期製品に利用するという方法で開発されていくだろう。

URL:  
<http://www.mozilla.org/>

### IE4.0の「ホワイトアウト」バグが見つかる

IE4.0で、悪意のあるページに置かれたJavaアプレットによってウィンドウズのデスクトップの表示が破壊されるという問題が報告されている。Javaアプレットを読み込み、IE4.0を閉じると、画面が真っ白になってウィンドウズの操作が不可能となるため、ユーザーは再起動するしかなくなるというもの。マイクロソフトのホームページには、この問題に関する情報はまだ掲載されていない(5月10日現在)。

なお、先月お伝えしたEMBEDタグ問題に対応した修正モジュールだが、日本語版が公開されている

URL:  
<http://www.microsoft.com/ie/security/?ie/security/embed.htm>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)